

## まえがき

私が霊能者として仕事することになった大きなきっかけは、2011年3月11日に起こった、東日本大震災です。

この日を境に私の人生は変わりました。私は人として、普通の人生をずっと望み、普通に生きることが人生の目的でしたが、この日を境に神仏に仕え、私の心身ともにすべてを神仏にささげる誓いを立て、今に至ります。

2011年3月11日その日まで、不思議なさまざまな現象がなぜ私に起こるのかも考えずいました。亡くなった母の声が聞こえて、口寄せで妹にそのことを伝えたり、祖父の言葉が聞こえ、いろいろなことを聞かされたりしても、自分だけに起こる現象として誰にも他には話さず、いつかはこの変な能力もなくなるだろうと思っていました。

2011年3月11日14時46分18秒、地震発生。私は自宅にいました。大きな揺れは感じられませんでした。子どもが「地震だ」と叫び、「テレビ見てみ！」と。その声でテレビのある部屋に行くと、見たことのない速さで波がすべてのものをのみ込んでいました。

「この能力は自分のものではなく、他の人々のためにあるものではないか……」

「私はおじいちゃんや他の人の声で地震というメッセージは聞いていたけど、それは阪神・淡路大震災のことだと思って注意深く聞いてはいなかった。もしかしたらこのことを伝えるためだったのでは……」

テレビから映し出される見たこともない惨状に愕然となり、

「私にできることがあるならなんでもします」

と、心で誰に向けてなのかわからないまま、誓いを立てるとすぐに

「わしはお前の守護霊だ。これからわしの言うことを聞いて霊能者になり、それを仕事にきなさい」

「ん？ おじいちゃんが守護霊様？ 霊能者？ 仕事？」

今まで「おじいちゃん」と気軽に話をしていたその方が私の守護霊様で、霊能者として仕事？？ 頭の中がぐるぐる回りましたが、すぐさま驚きより重い責務を感じ、今までのおじいちゃんへの態度を改め、守護霊様としてお仕えしなければならぬと身が引き締まる思いでいっぱいになりました。

それから毎日、守護霊様と家でできる行（修行）を行っていました。数日は手元にあつたお経を読み続け、声がかれてしまうのではないかと思うほどでした。家族から「気持ち悪い」と言われても、やめることはできませんでした。また、肉を食べず、酒類はもちろん、お茶やミネラルウォーターも駄目で、水道水のみという、嗜好品を断つ行も行いました。行の期間は守護霊様から「もうよい」と言われるまで、家族にはわからないように行っていました。それでもまだ、被災された方々のつらさを思うと些細なことだと思えます。

あれから7年が過ぎましたが、まだまだ修行の身です。何かに苦しまれている皆様のお役に立てればとこの執筆依頼をお受けしました。

「時期がきたら本を書きなさい」

霊能を始めてからすぐに聞いた、守護霊様からのお言葉でした。

「まだまだ先のこと」と思っていました。そのときがきたのだと身を引き締め、誠心誠意、天界のことをお伝えいたします。